

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年9月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300159
法人名	株式会社ケイシン
事業所名	グループホームことぶき太陽の家
所在地	鹿児島県鹿屋市笠之原町3番44号 (電話) 0994-40-9635
自己評価作成日	令和1年7月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りが緑の木々に囲まれた静かな住宅街で季節を感じながら過ごせる環境にあり、木々の間からは、鳥のさえずりなど感じながら地域の方々と散歩が一緒になったり挨拶をかわして交流を深めています。

日々の生活の中で、利用者一人ひとりの生活歴や残存能力を生かし、施設内だけではなく、屋外までの広い視野で行うように心がけ、毎月の行事は季節に添った計画や地域のイベントの参加など取り組んでいます。

当事業所の経営者は、幼児教育・障がい者支援・高齢者福祉に力を注いでおり、保育園児・学童との交流行事をはじめ、障がい者支援部門との関わりを持ちながら、ご利用者の生きがいつくり・自立支援の面に取り組んでいます。

また地域との関わりは、町内会へ加入し積極的に町内会行事等へ積極的に参加し協力・連携体制に図り取り組んでいます。

職員には、理念にか掲げている「入居者の立場に立った介護」を目標に日々ケアに努めています。利用者様が生活の中で出来る事をして頂き、生きがいを持って生き生きと暮らして頂けるよう、パーソンセンタードケアをケアのコンセプトに認知症介護の実践に取り組み、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念と誓いの言葉に加え、年間目標と月次目標を掲げ、毎月の職員会議で理念を振り返り、月次目標が実践できたかを確認している。また、当ホームは、基本方針や運営方針、研修計画や消防計画など、充実した事業計画を基に、本人本位の生活が送れるよう支援につなげている。

重度化した場合や看取りのあり方については、入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ており、入居後も本人や家族の思いの変化に気付き、汲み取ることができるよう、家族会等で繰り返し説明し確認している。また、看取りを行ったあとは、職員間で振り返る場を設けると共に、家族に寄り添い、心のケアまでを丁寧に行っている。

自治会に加入し、桜祭りや敬老会、十五夜、運動会等の地域行事に参加すると共に、家族会に地域住民にも参加してもらい、一緒に3B体操を行うなど交流している。また、保育園児との交流や中学校の廃品回収に協力したり、職場体験の受け入れ、障がい者施設との交流など、地域とのつながりを大切に考え、積極的に取り組んでいる。

年2回、総合防災訓練を地域住民も参加して実施するほか、通報訓練や避難経路の確認、消火器の使用法等、毎月防災に関する事項を繰り返し確認している。また、フロアの目に付くところに防災マップを掲示して日頃から意識付けを図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲げ法人理念に基づいた介護ができるよう努めている。朝の朝礼にて「職場の教養」を音読唱和している。	ホームの理念に加え、年間理念と月次目標を玄関と事務所に掲示し、毎朝唱和することで意識付けを図っている。月次目標は毎月振り返り、実践できたかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事に参加している。天気が良い日は入居者様と散歩散策して近隣の方との挨拶や世間話など日頃より交流をしている。	桜祭りや敬老会、運動会や十五夜等、地域行事に参加するほか、保育園児との交流や中学校の職場体験、障がい者施設との交流など、地域とのつながりを大切に考え、相互に交流する機会を設けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方や見学者からの質問等ある際は、その都度説明させて頂いている。また見学者の方への説明や介護保険等や介護等における相談ごとへの対応も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催出席者の意見アドバイスを頂いている。入居者様の状況や活動等報告を他の事業所の管理者や行政機関、家族会、地域の方々との意見や情報の交換・アドバイスとか改善に活かしている。	会議には、利用者や家族のほか、町内会長や市議会議員、行政職員や他の法人のグループホーム管理者等、多数参加し、事業所の活動内容の報告や行政への質問、他のグループホームの取り組み等、意見交換している。出された意見はサービス向上に活かせるよう話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市が主催する集団指導への参加や運営推進会議にて情報や意見の交換を行っている。市の担当者とは、密に連絡を取り相談や助言を頂いている。また生活保護者の報告や運営推進会議への参加、事故等の連絡報告相談など協力・連携体制の構築を図っている。</p>	<p>介護保険関係の書類提出や相談事がある時、また、保護課との連携等、行政職員とは日頃より連絡を取り意見交換をしている。グループホーム連絡協議会主催の研修会でも行政職員と顔を合わせる等、話をする機会は多く、事業所の取り組みや実情を伝えることで協力関係の構築に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての研修会や勉強会を行いミーティング、また日々の業務や毎月の身体拘束をしないケアの確認を行いでも職員が身体拘束について正しく理解するよう取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会議を2ヵ月毎に実施するほか、年に数回内部研修を実施し、外部研修にも参加している。研修で学んだことは、毎月の職員会議で報告すると共に、報告書を作成し提出することで、情報の共有を図っている。言葉による拘束については、声のかけ方を工夫する等、気を配り支援につなげている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しても研修に参加し内部研修を開き身体虐待のみならず心理的虐待ネグレクト等の知識を高め職員の意識を図り虐待防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加している。成年後見制度を利用されていた人が入居されていた事もあり勉強会を聞くなど支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容を必ず家族と一緒に観ながら分かりやすく説明しご家族も納得の上入所して頂いている。改定時も都度説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関に意見箱の設置し、また面会時に面談を行い職員や管理者に意見や要望を話してもらえ関係作りを行っている。	入居時に利用者、家族の意見や希望を尋ね、アセスメントシートに記録している。入居後も面会に来られた際には必ず要望を尋ねたり、メールで連絡を取り合う等、積極的に意見を求めている。また、毎月のお便りも、意見や感想をもらうきっかけになっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や毎月のミーティング開催時に職員の意見・要望・気づき・提案等を話し合う機会を設けている。また、日常的なコミュニケーションも大切にし、何でも話してもらえ関係作りに努め、業務に反映している。	朝夕の申し送り時や毎月の職員会議のほか、気づきや意見がある時はその都度話を聞いており、人事考課を兼ねた個別面談も実施し、意見や要望を聞いている。また、研修への参加希望を尋ねたり、勤務表作成時には、可能な限り休日の希望が叶えられるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人役員と法人内の管理者会議を月に1回開催している。代表者を含め法人においても職場や職員個別の状況を把握すべく努めている。また職場環境や条件整備を行って、介護業務以外の業務を行うことができるよう勤務調整もおこなっている。</p>			
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修会や地域のグループホーム勉強会に多くの職員が参加できるようにしている。研修受講後は職員会議で研修の報告を行っている。資格取得にも奨励し、勤務体制の調整等も行っている。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会等への職員参加を積極的に取り組んでいる。また、地域のグループホーム間でも定期的に交流があり介護の質の向上図っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの必要な情報に耳を傾け利用者が不安なく安全に安心した生活が送れるように努力し職員との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談や要望を切実に受け止め少しでも不安が解消されるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている支援を第一に考えサービスを利用して頂く様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に洗濯物たたみ・洗濯物干し・お盆拭き・散歩散策・対話等積極的に手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>定期的な家族等との面会面談、家族の協力のもと一時帰宅や事業所での行事等を入居者様や職員、家族の要望や意見を可能な範囲で取り入れながら行事等企画し、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>想いでの写真や小物など居室に設置し、馴染みの人や場での思い出を大切に途切れないように一人ひとりの必要性に応じて支援している。</p>	<p>これまでに築き上げてきた人間関係や馴染みの場所を記録し、美容室やお店、お墓参りや家族との面会等、利用者の希望する場所に家族と職員が協力し合い出かけている。また、家族や友人が面会に訪れた際は、居室で自由に過ごしてもらっている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者それぞれ個性や今まで生きてこられた経緯を重んじながら集団生活が利用者同士より良い関係が築かれるよう、入居者様のそれぞれの個性や生活歴を生かしながら支援させて頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても本人や家族との関係性を大切にして、必要時には情報提供や相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の対話や表情から本人の思いを察するように努めておりさらに家族からの情報を得て意向の把握を行い一人ひとりについて検討している。	本人が思いをうまく伝えられない場合は、日々の言動から汲み取ったり、家族や入居前のケアマネジャー、病院の相談員からも情報を集め、本人本位の生活に近づけられるよう話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族から情報を伺っている。又入居者のサービス利用の経過等は担当ケアマネサービス提供者から情報を頂き把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録での状況の把握担当者会議・ミーティング等での情報交換で、現状を把握するように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人家族の生活に対する意向を尊重し総合的な援助の方針を現状に即したチームで達成できるように作成し評価が具体的にわかりやすい介護計画の作成に努めている。</p>	<p>詳細に記載された本人、家族の意向を基に、日々の様子や状態についてを申し送り時等に確認し合いケアプランに反映させている。また、医師や看護師、配偶者を担当するケアマネージャーの意見も組み込むほか、状態が変化した場合は、その都度ケアプランを見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に沿ったサービスの実施を行い、状況と結果を介護ソフトを導入し個別記録を実施している。また職員間で情報の共有のため、毎日の朝礼や毎月のミーティングの際に記録を基に話し合いを行い、確認を行っている。必要時に介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>法人内の別のグループホームやデイサービス等の活用の情報収集に取り組んでおり、発生するニーズに対応できるように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の幼児施設・学童施設等との交流は日常的に行っており、散髪は地域資源の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診に関しては、入居前からの本人家族の状況のわかる医療機関を継続受診しており外来受診が難しい状況の際は訪問診療等への移行を家族と共に検討している。	入居前のかかりつけ医を把握し、入居後も家族と職員が協力し合い受診を支援している。受診が難しい場合は訪問診療で対応するほか、訪問看護師による週1回の健康管理を受けることができ、利用者、家族の安心につながっている。受診の内容は支援経過に記録し、申し送り時等に随時報告し共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携業務体制を業務委託し専門的に支援している。看護師による利用者の健康管理や状態変化など伝え、相談しそれに応じた支援を行っている。受診の様子・観察、緊急時等の対応も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>主治医やソーシャルワーカー家族等連絡を取り、回復状況等の情報交換や提供を行い利用者様の状態確認を行っている。また退院支援についても情報提供等を行い、訪問看護との医療業務連携し対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期の在り方について説明を行っている。利用者の状態なども家族に連絡し、話し合いも行う。職員で対応方針を共有し支援している。看護師を中心に応急手当や初期対応の訓練も行っている。</p>	<p>入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意をもらっており、入居後も家族会等で繰り返し説明し確認している。過去に看取りを支援した事例があり、医師や看護師、家族等関係者で連携して支援することができた。また、適切に看取り支援が行えるよう研修会も実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変、事故発生時に備えて職員は講習会等に参加している。また、救急車の呼び方や情報提供書を用意しており、不測の事態にも対応出来る様に訪問看護と医療業務連携体制を整え支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合避難防災訓練を実施し、また毎月通報訓練・避難経路の確認、避難誘導方法、消火器の使用法、通報訓練等を実施した。地震想定も実施し、今後は水害想定も訓練を行う予定。地域との協力体制では、町内会行事、運営推進会議を通じ町内会長、地区消防団長とも話し合い協力体制を取っている。	年2回、夜間想定を含む火災訓練を地域住民も参加の下で実施するほか、通報訓練や避難経路の確認等、机上訓練を毎月実施している。また、フロアに防災マップを掲示したり、町内会の防災訓練に参加するなど、地域との協力体制構築にも努めている。備蓄として飲料水や米、インスタント食品等、約3日分を備えると共にカセットコンロや懐中電灯等も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格をふまえ、特に入浴、排泄時には注意を行い、プライバシーを配慮し、その方にあった言葉使いや言葉掛け、介助を行うよう留意している。	トイレ誘導や排泄の確認の際は、耳元でそっと尋ねるなど配慮している。個人カルテは事務所内で管理し、ポータブルトイレは日中使わない時はカバーを掛けておくなど、見えないよう対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や、自分で決める意思を大事にし、入浴時等の着替える服選んでもらう等働きかけたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペース及び体調、気分等を考慮し食事、日課等に柔軟に対応し、職員の都合を優先することなく、利用者様に歩調を合わせるようにし支援等に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者様の生活習慣や好みで自己表現できるよう支援している。理美容の訪問サービスも定期的に行い、希望に添える髪型になるようカットしている。更衣でも自分で選んで貰っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど入居者様のできる範囲での下ごしらえを職員と共同で行い、また郷土のお菓子づくりなど、ご利用者より教えていただきながら一緒につくり、「食」を楽しんでいただいている。 食材に関しては時季に沿ったものやご家族から提供を受けながら提供している。 献立や食材など入居者様の食べやすいように形態など工夫し提供している。	献立は調理担当職員が考えており、食べたい物のリクエストがある時は、誕生会等の行事の際に提供している。台拭きや配膳下膳、調理の下ごしらえに利用者と共に取り組み、畑で採れた旬の野菜を食材に用い会話を楽しみながら利用者と職員が同じメニューを食べている。高齢化に伴い外食の機会は減ってしまったが、食べる楽しみを大切にしたいと考え、出前を取ったり、行事食に工夫を凝らすなど対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量の記録を毎日とり・栄養不足にならないよう気をつけて支援している。一人一人の特性や好み、身体機能に応じ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人口腔ケア実施している。口腔内の訴えや変調等がある時など歯科医に情報提供を行い、歯科医による往診、また歯科衛生士による専門的な指導及び助言頂き支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の尊厳を遵守したうえで、トイレでの排泄を大切に捉え、また紙パンツ・尿取りパットも本人に合わせて使用排泄パターン、排泄状況等の把握に努め、時間を見てトイレ誘導を行っている。必要に応じ福祉用具の検討も行い対応している。	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンを把握している。特に排便に関しては気を配っており、しばらく排便がない場合は、芋など食物繊維を多く含む食材を提供したり、緩下剤を用いるなど段階に応じて対応している。退院後はおむつ使用でホームに戻って来られることが多いため、リハビリパンツや布下着に戻す支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のための食材やメニューを工夫 ラジオ体操や散歩等で体を動かし水分も十分補給する。 医療機関との連携を図り、水分と運動や活動、精神的側面も考慮し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日により入浴日を決めており利用者様の体調等に応じ手浴、足浴、清拭等へ変更し行っている。	週3回の入浴を原則としているが、汚染時や希望があれば入浴できるよう対応している。入浴が楽しみになるよう入浴剤を用いたり、冬至にはゆず湯も提供している。また、同性介助に配慮するなど、羞恥心にも気を配り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	市が主催する集団指導への参加や運営推進会議にて情報や意見の交換を行っている。市の担当者とは、密に連絡を取り相談や助言を頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無い様に飲み終えるまで見守り確認する。処方の変更時、受診ノートに記載申し送りにて再確認する。 かかりつけ医、主治医からの処方内容を看護師、薬剤師、職員確認し留意点や残薬確認及び調整等行い連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ひとり一人の生活史（ライフストーリー）を尊重し、本人の意向に合わせ、共同生活の中で「役割」や「日課」づくりに心がけ取り組んでいる。個々の状況把握し出来る事は、協力して頂いている。残存機能を維持しつつ日々の生活にメリハリを持って生活出来る様支援している。</p>	/		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>年間の事業計画、行事計画を立て初詣や季節ごとの花見・ドライブ・果物狩り・家族とともに外食する機会等の支援を行っている。利用者様の体調や天候等に配慮し、また入居者様や家族の要望など伺いながら外出やドライブ等が楽しめるよう可能な限り支援している。地区の町内会行事など町内会と連携を図り、可能な限り参加している。家族との外出においても、本人の状態を十分留意し、家族の協力を図り取り組んでいる。</p>	<p>初詣やバラ公園、あじさい見学、ぶどう狩り、みかん狩り等、季節を感じられる外出先に家族と職員が協力し合い出かけている。また、桜祭りや敬老会、運動会等、地域行事に出かけており、地域住民とも楽しく交流している。その日の希望や体調、天候等に応じて近隣を散歩したり、家族の協力をもらい買い物に出かけるなど、室内ばかりで過ごすことのないよう積極的に外出の機会を設けている。外出の際は法人が所有するバスを利用して大勢でにぎやかに出かけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の管理能力に差があるため、家族と相談し了承、同意をえて事業所にて管理している。一人ひとりお小遣いがあり、必要に応じ、本人の好み等をうかがいながら、パンや菓子、飲み物、衣類、福祉用具など購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の出来ない方については、職員にて対応手紙は、ご本人で書いて頂き宛先等については職員にて対応また自己管理できる人は、携帯電話を使用されている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペース（リビングホール）の入居者様が見やすい位置へテレビの設置や入居者様が気ままにくつろげるようにソファの設置、本人が使い易いテーブルなどの設置している。また外の様子見える大きな窓や季節を感じえるベランダもあり春夏秋冬を感じられる。</p>	<p>フロアには利用者や保育園児の作品が掲示され、テーブルやソファが動作しやすい間隔で設置されている。浴室は広く、浴槽が中央に配置されているため、どちらからでも自由に入ることができる。菜園では、トマトやピーマンなど季節の野菜を育てており、食材として利用している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>大きなソファがあり多数の方が座られふれあいの場所でもある。テレビも見やすい場所に設置テーブル移動も自由に出来る。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた寝具や服・タオル・お茶碗、コップなど、本人の好みやライフストーリーの中で馴染んだものを等をご家族の協力をいただきながら準備し使用し過ごしていただけるよう取り組んでいる。</p> <p>ご家族の写真 思い出の品物を居室に置き安心して過ごして頂くようにしている。</p>	<p>エアコンや電動ベッド、タンスや洗面台が備え付けられており、個々の動線に即して配置されているため動作しやすい。写真や寝具等、これまで自宅で使っていた馴染みの品を持ち込み、自由に使ってもらっている。室内の飾り付けは、利用者と家族、職員が見やすいよう、また、手に取れるよう配置している。空調にも気を配り、毎朝必ず換気をして空気を入れ替えている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設全体バリアフリーであり壁側手すりも設置安全に歩行出来るにし歩行器や車椅子もスムーズに動けるよう対応している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない